

1. 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|---------------|------------|--|
| 事業所番号 | 2970101818 | | |
| 法人名 | 有限会社 とらい・あんぐる | | |
| 事業所名 | グループホーム花木 | | |
| 所在地 | 奈良市古市町2157-5 | | |
| 自己評価作成日 | 令和2年11月 | 評価結果市町村受理日 | |

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | /www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/29/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2970101818-00&ServiceCd=320&Type |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | |
|-------|-----------------------|
| 評価機関名 | 特定非営利活動法人 Nネット |
| 所在地 | 奈良県奈良市高天町48番地6 森田ビル5階 |
| 訪問調査日 | 令和3年1月21日 |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様の人格を尊重し、より自分らしい生活を送れるようなケアを心がけております。レクリエーションにおいては現在はコロナ禍の為、外部からのボランティアを全面的に中止しています。その分内部のレクリエーションにおいて極力各自が好まれるレクリエーションを中心にスタッフがサポートする形で実施しております。医療においても提携病院による訪問診療、通院の他、訪問歯科と提携し口腔ケアにも力を入れております。また弊社と提携している鍼灸マッサージを活用し、希望、必要に応じて週に2~3度お願ひしています。利用者様家族様共に安心・満足していただけるような介護を目指しております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

理念にある「笑顔」を大切に、認知症で言葉が通じなくても笑顔であれば利用者にはこやかでいてくれるし、笑顔で通じるものもあるとし、まずは笑顔でいる事を一番心掛けている。近年災害続きの日本を憂い、いざという時の為に「非常用発電機」を昨年設置し、災害による停電の際には数時間対応できることが実験済みで、地域の役にもたてる事と自負している。このコロナ禍の中で地域との連携が途切れない気を配りと、コロナ禍でも出来る事はないかを模索しながら前に進んでいるホームである。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | 取り組みの成果 該当するものに印 | 項目 | 取り組みの成果 該当するものに印 |
|--|---|---|---|
| 56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない | 63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない |
| 59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12) | 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | |

自己評価および外部評価結果

セル内の改行は、(Altキ-) + (Enterキ-)です。

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|-----------------|-----|---|---|--|---------------------------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | 理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 本人の意思を第一に考えながら、利用者様がその人らしく地域の中で安心して生活できるよう、職員に介護理念を理解しその理念を共有しながら実践できるよう取り組んでいます。 | 「笑顔でお世話。思いやりのある介護」が理念であり中でもこの「笑顔」が大事と管理者はいう。認知症で言葉が通じなくとも笑顔で接すれば通じるものがあるとし、この調査のインタビューで管理者、職員共この「笑顔」を重視していると話していた。 | |
| 2 | (2) | 事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 自治会の清掃等様々な地域活動に参加させていただいています。運営推進会議や外部からのボランティアに関しては現在コロナ禍の為、ほぼ中止しております。 | 自治会の清掃活動に職員が参加しているが、コロナ禍では自治会との連携が疎遠になりがちなので、特に防災面は心配りが必要という観点から自治会の会長と話し合い密に連携をとっている。コロナ禍で昨年2月よりボランティアの受け入れを中止している。 | |
| 3 | | 事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 自治会に加入し、運営推進会議等を通して地域との交流を図りながら周囲への理解も得られるよう努めています。 | | |
| 4 | (3) | 運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 通常であれば、2か月に一度運営推進会議を開催し、地域関係者に参加していただいています。当方の現状や問題等を報告したり相談させていただいたり、常に透明性の高い状況でサービスに取り組んでいます。 | 運営推進会議は通常であれば社協、自治会、地域包括支援センター、民生委員などの参加を得て奇数月に開催しているが、コロナ禍のため昨年の1月を最後に運営推進会議は中止となっている。 | 運営推進会議の議事録を、職員にも周知を図り運営に活かす取り組みを期待する。 |
| 5 | (4) | 市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる | コロナ禍の為2020年の2月以降はできていないが、地域包括支援センターと運営推進会議やネットワーク会議を通して交流し、情報収集やアドバイスを受けながらサービスの質の向上に取り組んでいます。 | コロナ禍の為、市担当課へは郵送や電話などで連携を図り、市担当課からの必要事項は全てメールで届き、その中で気になる事項などがあれば回答する形で対応している。 | |
| 6 | (5) | 身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 身体拘束は一切ないが、建物の前面が県道のため、昨今の状況を踏まえ、玄関一か所のみを施錠しています。 | 管理者は常に利用者の状況を把握しており、身体拘束はないかと常に話し合い身体不拘束のケアの実践に取り組んでいる。その話し合いの際に研修を兼ねてスキルアップを行っている。 | |
| 7 | | 虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 虐待行為は一切ないが、事業所内での虐待が見過ごされないよう、注意を払い、防止の徹底に努めています。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|---|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | 権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 通常時は包括支援センターのネットワーク会議や勉強会等に積極的に参加させて頂き、利用者様の権利の擁護と共に、より充実した生活を送れるように努めています。 | | |
| 9 | | 契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 重要事項としてきちんと説明し、理解と納得をはかっています。 | | |
| 10 | (6) | 運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 月の便りに会社代表の携帯番号を記載して苦情窓口として利用し、契約の際に外部相談窓口の案内もしています。 | 法人が運営する全事業所の利用者家族に運営に関するアンケートを行い、家族の意見などを聴いている。また、ホーム便りなどに相談窓口として法人代表者の携帯電話番号を公開し、家族からの意見を直接聴く取り組みを行っている。 | |
| 11 | (7) | 運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | スタッフの要請や必要に応じてスタッフミーティングを開催しています。月に一度の幹部会議での伝達事項を日々の申し送りの際に通達し、その場で若しくは随時スタッフの意見や提案を聞く機会を設けています。 | 大半の職員は管理者より勤務年数が長くホーム内の実情を熟知しているという事もあり、管理者に対して意見や要望を言いやすい雰囲気となっている。高齢の職員が一定年齢で減給されることについて不満を訴え、その改善策として経験や勤務能力などを考慮し減額分を補う処遇改善を行った経緯がある。 | |
| 12 | | 就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 給与面で日々の業務内容を評価(自己評価も含む)し、職務手当等で加・減算を行っています。 | | |
| 13 | | 職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 介護職員処遇改善と連動してキャリアパスを導入し、職員が自発的にレベルアップできるような体制を構築しています。 | | |
| 14 | | 同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 例年であれば、地元のふれあいコンサートや新年会等の行事に参加し、同業者のみならず、各介護関係者と意見・情報交換を行うよう心がけ、サービスの質の向上に取り組んでいます。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------------|-----|---|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | 初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 入所に至るまでに管理者やケアマネージャーが面会・面談を重ね、書面でのみの判断はしておりません。本人との面談も可能な限り行っております。 | | |
| 16 | | 初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 利用入所に至るまでに体験入所を行う機会を提案する等、相互の不安を取り除く等の努力をしています。 | | |
| 17 | | 初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 家族からの意見や要望について密に相談し、その上でケアマネージャーやスタッフと精査し、その都度必要なサービスを注意しながら実行しています。 | | |
| 18 | | 本人と共に過ごしえあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 利用者一人一人の能力や性格を把握し、できる限り本人が望まれる日常生活の家事などを分担させていただいています。(自分の部屋のモップ掛け、洗濯物たたみ等) | | |
| 19 | | 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 家族との連絡を密にして信頼関係を築き、時には家族の協力を仰ぎながら、一体的なケアを心がけています。 | | |
| 20 | (8) | 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | コロナ禍以前は家族や知人の方には施設でのイベント等をお知らせし、参加をお願いしていました。また施設への訪問時間・回数・訪問者の限定や自粛要請も、世情や公からの指示・指導からコロナの脅威が一定の安全レベルに収まり次第解除する予定です。 | 以前は家族と外食したり、お墓参りに家族と出かけたりしていたが、コロナ禍となり感染予防のため昨年の秋以降緊急以外の通常面会を禁止している。 | |
| 21 | | 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 利用者同士が仲間意識を持てるようにスタッフは常に気を配っています。時には席替え等を行いながら、利用者同士の人間関係には配慮しています。 | | |
| 22 | | 関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 必要に応じて本人、家族の相談や支援に努めています。退所後も入院中の利用者のお見舞いに行ったり、他施設への入所支援を行ったりしています。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|---------------------------------|------|---|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | 思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | フェースシートに詳細を記入し、本人の意思を尊重しながら家族・スタッフが話し合いにより、本人の意思や意向に合うケアを提供しています。 | 比較的軽介護度の方が多いので、利用者の思いなど直接聴くことができ、意思疎通が困難な方には、日常生活の中での態度や仕草からその人の思いを把握している。 | |
| 24 | | これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 馴染みの物や、お気に入りの物等を持参して頂き、より入所前の生活に近い環境、雰囲気の中で落ち着ける環境で暮らせるよう努めています。 | | |
| 25 | | 暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 束縛することなく、またタイムスケジュールを強制することなく利用者の意向を取り入れながら、現状に即したケアを提供しつつ快適に暮らせるよう努めています。 | | |
| 26 | (10) | チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 本人、家族、管理者、ケアマネージャー、スタッフと全ての関係者が随時意見を交換し合い、情報を集め寄ってより最適なケアを模索しながら介護計画に取り組んでいます。 | 利用者は他の施設からの入居が多く、本人の情報はサマリーや家族からのフェースシートなどから把握し、家族を交え管理者や職員が参加したケアカンファレンスを行い、介護計画を作成している。 | |
| 27 | | 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 利用者個々の様子を観察して介護ノートに記入し、スタッフ全員が情報共有する体制をとっています。また状況の変化に応じて、随時介護計画を見直しています。 | | |
| 28 | | 一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 積極的に要望の把握を行い、柔軟にニーズに対応しています。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|---|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | 地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 通常時は地域のボランティア活動の方々と交流をはかり、利用者様が無理のない、できる範囲で協力しながら支援しています。 | | |
| 30 | (11) | かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 月に二度訪問診療を受けており、それ以外にも何かあればすぐに主治医に相談して指示を受け、信頼関係を築いています。利用者様の健康管理には細心の注意を払っています。 | 事業所の協力内科医が毎月訪問診療を行っており、随時に相談ができ指示を受けたりしている。月1回歯科医の往診もある。精神科や皮膚科の通院には利用者の状態を良く知る職員が付き添っている。 | |
| 31 | | 看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 施設の看護師や地域の看護師に相談し、アドバイスを受けながら健康管理を行っています。施設の看護師はケアマネージャーも兼任しているため、利用者様の情報は熟知しています。 | | |
| 32 | | 入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 提携医療機関との連携を密にして、入院先病院の紹介、退院後のケアに至るまで、連携体制を構築しています。 | | |
| 33 | (12) | 重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | グループホームとして対応可能な状況について、あらかじめ医師や家族と相談し、方針決定を行っています。終末期ケアに関しては家族の希望があれば看取りまで行っています。スタッフの不安解消の為、研修も案内があれば声掛けをしています。 | 利用開始時に本人と家族に看取り指針を説明し、本人が重度化した時には、医師を交えて改めて説明し家族の意向を確認して看取りの体制をとっている。 | |
| 34 | | 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 朝の申し送り時に利用者様の現状を周知、共有して急変時の処置に対応しています。事故発生時の対応については、普段より最寄りの看護師と連携し、早急に対応できるようにしています。 | | |
| 35 | (13) | 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 定期的な災害時を想定した避難訓練を行い、迅速な行動がとれるようにしています。また運営推進会議の議題にもしながら、地域や近隣にも協力をお願いしています。地域の防災訓練にも積極的に参加して非常時に備えています。 | 避難訓練は年4回、利用者も参加して行っている。コロナ禍で自治会の集会も中止となり、防災面については常に自治会長と連携をとっている。昨年災害に備えて自家発電機を設置した。備蓄は米と冷蔵庫に入っている食品、おむつ等がある。 | 災害に備えての食品の種類と量が少なく、備蓄は生命を繋ぐものであり、飲料水や非常用食品などを計画的に備蓄する取り組みを期待する。 |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 36 | (14) | 一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 個々の人格の尊重のため個人ノートに詳細を記入して経過を把握し、言葉掛けや対応に注意しています。 | 利用者一人ひとりの人格や個性を尊重し、その方の生き方や考え方を受け入れ、人生の先輩としての尊厳を傷つけないようにしている。個人情報の漏洩がないよう管理している。 | |
| 37 | | 利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 利用者様の自己決定を最優先して、個々の意思を尊重し、支援を重視したケアを行っています。 | | |
| 38 | | 日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 生活の流れにおいても利用者様のペースを大切に、スタッフも家族の一員として希望に沿った支援をしています。 | | |
| 39 | | 身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 二か月毎に訪問美容に来て頂き、希望に沿った髪形を実施しています。また、本人や家族の希望があれば、服装や装飾具、化粧品等の買い物に同行しています。 | | |
| 40 | (15) | 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 食事の前にはスタッフが必ず嚥下訓練を利用者全員と行い、コミュニケーションを円滑にしなが、皆で同じ食事を摂り、楽しめるよう心がけています。 | 食事は昼食と夕食を調理担当が、朝食は夜勤者が手作りし提供している。お誕生日やクリスマスにはケーキを、お正月にはお節料理などで季節やイベントの食を楽しむ支援を行っている。 | |
| 41 | | 栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | スタッフの中に栄養士の経験者が在籍しており、相談しながら献立表の工夫や水分量等を確保できるよう注意、支援しています。 | | |
| 42 | | 口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 毎食後、スタッフが見守りながら口腔ケアを行っています。問題発生時には最寄の歯科医と連携し、迅速な対応をしています。また、訪問歯科とも提携し、ご希望の利用者には歯科医による治療、並びに歯科衛生士による口腔ケアを週に1度お願いしています。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | 排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 排泄チェック表を基に個々の排泄パターンを把握し、できる限り自立排泄の支援を基本とするトイレ誘導を行っています。 | 排泄チェック表から排泄パターンを把握し、適時な声かけでトイレ誘導を行い自然排泄を促している。夜間オムツ対応の方でも昼間はトイレで自然排泄する支援を行っている。排泄の自立支援として、リハビリパンツになると布パンツに戻りにくいので、早い目に声をかけてトイレ誘導している。 | |
| 44 | | 便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 排泄チェック等で便の状況を把握し、便秘状態にある場合は飲食物や水分摂取の工夫、運動等、薬を安易に頼らない方法で対応しています。 | | |
| 45 | (17) | 入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている | 基本的に強制はしないが、入浴を楽しめるよう、利用者同士の組み合わせや順番、入浴剤の色を変える等の工夫をしています。本人の希望があれば随時入浴もしていただいています。 | 入浴は週2回午前中に行っている。前回の課題であった「午前中ではなく午後に入浴する」については話し合いの結果、利用者の反対があり実現できなかった。冬にはゆず湯等を楽しんでいる。 | |
| 46 | | 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 個々の生活パターンを尊重し、強制することなく、その人らしい且つ健康的な生活を送れるよう支援しています。 | | |
| 47 | | 服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 投薬情報等により薬の目的、副作用等をスタッフ全員がきちんと理解し、様子観察を十分にしながら服薬支援をしています。 | | |
| 48 | | 役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 日常生活への参加を促し、残存能力を高める努力を行い、強制することなく自然な形で行えるよう支援しています。誕生月にはケーキを買って、皆でお祝いしています。 | | |
| 49 | (18) | 日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している | 買い物、散歩等についても強制することなく支援している。花見や紅葉狩り等、機会を捉えてドライブに出かけるよう心掛けています。 | 以前は近くの公園や神社等出かけたが、コロナ禍の今はドライブで近場に出かける程度で遠出はできていない。しかし遠出ができない分ホーム内でレクリエーションや「間違い探し」や「計算」「漢字ドリル」など利用者が集中できるクイズを取り入れ気分転換を図っている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 所持金に関しては、他の利用者とのトラブルを考えて事業所が立て替えています。お金の管理が可能な利用者様については、買い物等についてもスタッフは支援を行っています。 | | |
| 51 | | 電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 電話、手紙等については一切規制していません。希望があれば、家族との年賀状交換の支援もしています。 | | |
| 52 | (19) | 居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | リビングの壁には利用者の習字や毎月の歌を貼り、親しみやすい雰囲気を出しています。壁面は季節感を出し、四季を感じ取ってもらえる配慮をしています。 | 昨年壁を塗り替え、屋外に面する居室の壁を災害に備えて大きなカラス戸に取り替えた。また利用者をコロナウイルスから守るためにウイルスを除去効果のある空気清浄機を購入し作動している。管理者は派手過ぎず地味過ぎない季節感を感じられるような共有空間を目指している。 | |
| 53 | | 共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 場面において机や椅子の配置を変える等して居心地の良い空間を提供し、話に花が咲いたり場が盛り上がったりするよう工夫しています。 | | |
| 54 | (20) | 居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 家具等の持ち込みについても一切規制はしていません。馴染や使い慣れた物を持参して頂き、居心地良く過ごしてもらえよう努めています。 | 居室は洋室でエアコン、ベッド、カーテンを備え付けてあり、利用開始時に、本人が使い慣れた家具など好きなものの持ち込みを勧め、利用者各々お気に入りのものに囲まれて過ごしている。 | |
| 55 | | 一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 部屋には自分の写真、名前プレートを貼ったり大き目の字で掲示したりして、安心できる生活を送れるように配慮しています。 | | |